

スクラム

～ 立志・挑戦・感動～

浮羽中学校学校通信

第27号（10月21日発行）

文責 校長 高倉 満

「オンラインゲーム 親悩む」注意喚起のお願い！

□先日の新聞にも掲載をされていましたが、子どもたちの間でオンラインゲームを巡るトラブルが広がっています。これは浮羽中も例外ではありません。福岡市では9月、同級生に暴行してけがをさせたとして男子中学生が逮捕される事件も起きました。

現在、全国的に「フォートナイト（対象15歳以上）」「荒野行動（対象17歳以上）」などのオンラインゲームが問題となっています。

これは本校の生徒の間でもよく聞くゲームの名前です。これらのゲームは、プレイヤーが生き残るために武器や仲間を見つけて戦う戦闘ゲームですが、具体的には次のような点が全国的に問題となっています。



（1）親に内緒で「課金」する点

課金することで他のプレイヤーとは違ったアイテムを手に入れることができます。そのため、アイテムが欲しくて、親に内緒で10万円以上の課金をしたという小学生の例もあります。

（2）攻撃的な言動で「いじめ」を誘発する点

敵を倒していくゲームの特性上、攻撃的になり暴力的な言葉や差別的な言葉を使う傾向が強くなります。また、そういった言動を学校生活に持ち込み、対戦相手のクラスの友達等に対して「いじめ」を行うといった例もあります。

（3）不特定多数の人と知り合いになる点

チャット機能が使えるため、不特定多数の人ともコミュニケーションを取ることができます。そのため、個人情報や漏らしたり交友関係が広がったりしてトラブルに巻き込まれた例があります。

*福岡県でも昨年12月中旬、中学生に大麻の購入を呼びかけるメッセージが届く事件が起きています。のちに、メッセージの送り主が中学生と接触するために、人気ゲーム「荒野行動」を悪用したと判明しました。

（4）中毒性があるって止められなくなる点

最後まで勝ち残ることを目指すゲームであるとともに、プレイヤーの脳が興奮状態になるように作られていて、快楽物質であるドーパミンを大量に分泌するため、子ども自身では止められません。寝る間も惜しんでゲームを行い、生活習慣が乱れたり授業中の集中力がなくなったりして、不登校やひきこもりの要因にもなっています。さらに毎日長時間行えば、子どもの脳は機能低下をお越し、感情や理性をコントロールすることができなくなります。親がゲームを取り上げると、子どもが親に殴りかかるなど暴力的な行動を取る例も起こっています。

「スマホ等が脳に与える大きな影響！」も忘れない！

□これまでも、スマホ等を使う時間が長いほど学業成績が悪いということがわかっていました。脳トレで有名な川島隆太氏は、「スマホを捨てれば、偏差値10向上も夢ではない」と述べています。スティーブ・ジョブズは自分の子どもにはiPadもiPhoneも触らせなかった、という有名な話があります。欧米のIT企業の関係者の多くも、子どものスマホ等の利用については、「平日禁止で週末だけ許可する」「14歳まで与えない」「使用時間を制限する」「寝室には持ち込ませない」等の厳格なルールを設けているのが一般的だそうです。特に、10歳以下の場合、スマホ等の中毒になりやすいと考えられています。彼らは、スマホ等の利用が青少年の脳に与える悪影響をよく理解しています。私たちも真剣に子どもと向き合い、一緒に考える時だと思います。

